（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達 LABO Proリハ 牟佐（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年　2月　6日	～	2026年　2月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	36	（回答者数）	13
○従業者評価実施期間	2026年　2月　6日	～	2026年　2月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	臨機応変に対応している
1	利用児童の中で事業所を楽しみにしている児童が多い。個人の特性にあわせた個別療育ができる。 広い場所を使っての運動と机での学習環境の調整を行うことで集中して取り組む療育が実施できる。	好きな事楽しいことの中で楽しいことだけではなく、苦手な要素を取り入れながら、「おもしろい、もっとしたい」と思える成功体験を積み重ね、本人が自主的に取り組めるプログラムを実施している。	遊びや課題の内容を年齢に合わせて実施していく。 職員の研修や経験の機会を増やす。
2	専門的知識のある職員が支援計画に沿った療育を行っている。	個別療育では本人に合ったプログラムを作っている。 集団療育では振り返りの時間を設けて共通理解を図っている。 理学療法士・作業療法士、保育士などから家族が必要と思われるアドバイスを行っている。	研修等により専門的な知識を得たり、職員間のミーティング等で利用者に関する特性への共通理解を共有する。
3	家族が送迎時にスタッフと話をすることが安心感につながっている。療育の場を見学したり、実際に参加をしてもらう事で療育の目的や、本児に必要なスキルなどについての気づきがある。	保護者や家族が今何に困っているのかをその都度傾聴し保護者や家族に寄り添う時間を設けている。	保護者や家族とお子さんを繋いでいけるように、相談援助の研修等に参加していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の事業所との交流や保護者間の交流が少ないため閉鎖的である	個別療育を実施していくうえで、他の事業所との交流や保護者間の交流についてのニーズを聞き取ることがが少ない	保護者評価や事業所用自己評価シートを活用して、保護者間の交流や他の事業所との情報共有などのニーズを広い、次年度に生かしていく。
2	スタッフによって専門知識にばらつきがあり、情報共有の難しさを感じることがある。	日々の療育への時間に追われるため、法人内外での研修に時間を当てることが難しい。	スケジュールの見直しや業務改善を行い、スタッフ全員が無理なく研修等が受けられるようにする。
3	支援者が同じ人になりやすく、同じプログラムになりやすい。	スケジュールの関係で担当者だけでなく補助の支援者も同じ場合が多い。	スケジュール調整をして普段と異なる支援者を意図的に作る。